

じんけん通信

第2号

(通算10号)

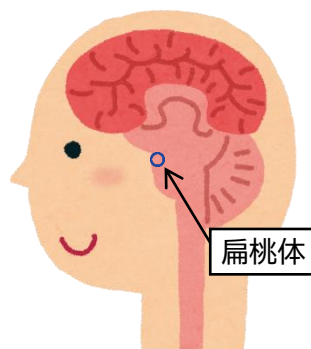
2019年

5月31日

【文責】

人権・同和教育
担当：長友伸二

脳は主語を理解できない？



5月中旬、人権教育の九州大会に参加しました。そこで、講演の際の余談がとてмо気になりました。それは「脳は主語を理解できない」。近年の脳科学はめざましいものがありますが、一体どういうことなのでしょう。

上のように、本を読んでいると、主人公に感情移入してしまふことはありませんか？「脳は主語を理解できない」とことは、実は読書でも起きている現象だそうなんです。

脳には、さまざまな部位がありますが、新しい脳(新皮質)と古い脳(古皮質)に大きく分けられます。ここで「主語が理解できない」のは古い脳、大脳辺縁系と呼ばれる部位です。こ

こにある扁桃体は感情を司る器官です。扁桃体は、入ってきた言葉が良い感情か悪い感情かだけを判断します。自分への感情も相手への感情も、すべて「自分に向けられた感情」として受け止めるそうです。

つまり、相手に悪口を言つと、脳では自分が悪口を言われたときと同じ状態になります。人をけなしている人が、なぜか自己嫌悪に陥るのはそのためです。事実、悪口などのマイナスイメージを言うとき、コルチゾールと呼ばれるストレスホルモンが分泌されます。



では、なぜ、古い脳はそのような反応をするようになったのでしょうか。

調べてもあまりよく分かりま

せんでしたが、考えるに、そうしなければ他人と「共感」できないからではないでしょうか？うれしいときに喜び合うこと、苦しいときに助け合うこと、危険なときに避難し合うこと……それらは自分に置き換えるからできることであつて、生きるために必要な感覚です。だからこそ、古い脳が感情を司つたのではないのでしょうか。

先日、全米マスターズゴルフで優勝したタイガー・ウッズ選手は、ここ一番の大勝負の際、「対戦相手がうまくいきますように」と祈るそうです。反対に、ライバルを褒めることが、自分を鼓舞することにつながる。それは、これまでスランプだった彼が身に付けた力でした。間もなく地区中総体、皆さんも試してみてもどうでしょうか。(中野信子・ユカクマ「脳はなんで気持ちいいことをやめられないの？」他より)

2019年度第2号

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前

(ペンネームでもO.K.ですよ！)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？ (○ ・ ×)